

## 2024年度 事業計画書

当連合会の目的は「喉頭摘出術を受けた者の発声練習についての研究および指導を通じて福祉向上に寄与する」ことです。この目的を達成するため、2024年度の事業計画を次の通り進めます。

1. 退会予定の団体もあるが、会員は、正会員：3,980名、賛助会員等を含め4,000名を目標とします。

2. 事業関係としては、  
総会1回、理事会2回以上開催します。

3. 行事として

### ①ブロック研修会

会員団体は全国に52あります。活動内容の目的は共通ですが、会員団体が独自に工夫したカリキュラム、永年培われた伝統と技術、更には助成金提供団体の掘り起こし等、相互に学ぶべきことは多いと思います。特に各喉友団体はブロック研修会の開催等を通して、会員相互の情報交換と研鑽の成果を挙げて頂きたい。特に会員減少の対応について十分な議論が必要です。

また今年度は全国喉摘者発声大会のブロック予選会を兼ねます。  
今年度のブロック研修会日程は、別表の通りです。

### ②第12回全国喉摘者発声大会（第4号議案）

隔年開催の全国喉摘者発声大会を今年度開催します。

日時：2024年11月16日（土）午後0時30分～4時45分

場所：東京都障害者福祉会館（都営地下鉄三田駅A8、A7、JR線田町駅）  
（前回の開催場所から変更になります）

4. 僅少人員構成の団体への対応について

団体各位におかれては、新規入会者の減少・高齢化、認定訓練士の高齢化、教室開催場所再開・新規発掘の困難等、様々な課題が山積されています。日喉連としては、20人以下の構成人員団体に対する団体割り年会費の免除等の対応をしていますが、個人割り年会費の減免や、日喉連退会後も活動を継続する団体に対しては再入会を促し、日喉連の情報を共有する等の施策を検討します。

また最終解散となる団体においては、希望者全員（認定訓練士の資格も同様に）を既存団体に受け入れます。

#### 5. 団体後継者育成について

僅少人員団体のみならず、各団体においても上記課題は大きな問題であり、単に個別の団体の問題として留まらず、ブロック、更には日喉連として対応すべき課題と認識します。そのうえで当該団体からの早期発信により人材育成のモデルケースを共有し対応致します。

#### 6. 教室開催場所の問題について

コロナ禍の大きな課題となった病院施設内教室の閉鎖後、未だ再開に至っていない教室が散見される中、引続き再開を陳情する活動が重要となります。

また、代替公共施設の開拓についても行政に向け無償利用の訴求を粘り強く行う必要があります。

行政との親密化は、団体紹介パンフレット類の設置や補給の依頼、団体役員との継続的なコミュニケーション、団体行事への自治体責任者の招待等様々な機会を通して、これらの活動を恒常化していくことが重要と思料いたします。

#### 7. オンライン指導の普及

発声教室に通えない会員各位への指導に、リモートオンライン指導は有効な手段と位置付けており、既に導入している団体もあります。前年度から進めているオンライン設備の支援活動を発展させ、今後は、全国規模によるオンライン指導体制の導入を検討し、日喉連として、設備の拡充、指導ノウハウ等の蓄積・展開に最大限務めて参ります。

#### 8. 喉頭摘出者発声訓練士資格制度

日喉連認定発声訓練士制度は、導入12年目を迎えますが、高齢化と会員数の減少などにより、訓練士数は減少傾向にあります。今年度も重点目標として、会員から訓練士候補の掘り起こしを掲げ、日喉連共通研修教材と養成指導カリキュラムを充実させ、訓練士の効果的養成を図りつつ、発声訓練士資格制度自体をブラッシュアップしていきます。

#### 9. 日喉連の収支改善、活動について

日喉連活動の社会的貢献、重要性を理解していただきつつ、法人個人の賛助会員を募集します。また、行事、会議等は常に費用削減を意識すると共に、会員にとって有用な日常生活用品の提供・販売を強化し、収支改善に努めます。

1 0．会報の発行、日喉連のPR活動

会報「日喉連」第54号の発行及びタイムリーな情報をホームページの有効活用により、日喉連活動のPRに努めます。

1 1．会員団体相互の交流会

各団体横断的な懇親会、旅行、リクリエーション等の交流会企画に対して、経費や施設、設備等の許す限り、日喉連からの支援を行うことを検討します。

1 2．その他

日喉連の目的達成に資する事案があれば、都度、適切に対応します。

以上